

第5回 包晶型・分解溶融化合物型状態図

1. 包晶型状態図の読み方

図5.1に包晶型状態図を示した。その特徴は、以下の通りである。

端成分AとBにそれぞれ**固溶体**とがある。

温度 T_0 を**包晶温度**と呼ぶ。

著作権の侵害を避けるため、図5.1は掲載しません。

図5.1 包晶型状態図

組成 x_0 の混合物を加熱して、点aの液相単相領域にした場合を考える。

平衡状態を保ちながら、温度 T_1 で点bの液相線に達した。



の反応が起こるが、境界線前後の相の数は2（自由度1）であり、不変点ではないので、液相から固溶体結晶が晶出しながら、温度は下がっていく。最初に晶出する結晶のことを、**初晶**という。

本著作の著作権を保護するために、以下のページを省略します。